

# 新潟大学における学生の分野横断的学修成果を統合する授業科目のデザイン

柿原豪<sup>1</sup>、上畠洋佑<sup>1</sup>、神田麻衣子<sup>1</sup>、斎藤有吾<sup>1</sup> (1 新潟大学教育基盤機構)  
E-mail: g-kakihara@ge.niigata-u.ac.jp

## 1. 新潟大学のメジャー・マイナー制

図1 NICEプログラムのマイナー一覧

○令和3年度(2021年)より文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に新潟大学の「全学分野横断創生プログラム(以下、**NICEプログラム**)」が採択  
→ 全学的なメジャー・マイナー制を展開

○メジャー(所属学部での専門教育学修)とマイナー(メジャー以外の分野についての学修)を組み合わせた分野横断的学修

→ NICEプログラムの目的: 複雑化した社会課題に複眼的視野でアプローチできる人材の育成

○マイナーは3種類・44パッケージを展開: 「**学修創生型マイナー**」「**パッケージ型マイナー**」「**オナーズ型マイナー**」(右の図1参照)

学修創生型マイナー (自己選択方式・14単位以上) 「分野横断デザイン」「分野横断リフレクション」各1単位を含む		
○学修創生		
パッケージ型マイナー (12単位以上)		
○アグロ・フードアソシエーツ	○ことづくり・マネジメント	○コミュニティ・マネジメント
○データサイエンスリテラシー	○ジオパーク	○地域災害環境システム
○ふるさと共創学	○外国語(ロシア語)	○MOT基礎 (特許・経営および製品開発基礎コース)
○核エネルギー・災害科学	○農業から始めるDXとGX	○知能情報システム
○心理・人間学	○化学	○化学システム工学
○社会文化学	○生物学	○材料科学
○言語文化学	○自然環境科学	○建築学
○法学	○機械システム工学	○生物資源科学/流域環境学
○数学	○社会基盤工学	○応用生命科学/食品科学
○物理学	○電子情報通信	
オナーズ型マイナー (24単位以上)		
○環境学	○外国語(ロシア語)	○統合化学
○外国語(ドイツ語)	○外国語(中国語)	○医学物理学基礎
○外国語(英語)	○GIS(地理情報システム)リテラシー	○学校教育実践
○外国語(フランス語)	○経済学	○データサイエンス
○外国語(ロシア)	○電子・情報科学	

### 学修創生型マイナー 柔軟な学修と質的保証を両立する設計

- ・新潟大学独自のマイナー(14単位以上)で、科目リストがない
- ・「**分野横断デザイン**」(1・2年次)「**分野横断リフレクション**」(3・4年次)を履修(各1単位)
- ・学生自身が分野横断的な探究課題を設定してマイナー学修を計画、履修後に学修成果を集大成
- ・**アカデミック・アドバイザー\***による学修支援

↓ 令和5年度は分野横断リフレクション(2日間・全8回)の初年度

分野横断的学修を振り返る授業科目のデザインが必要

出典:新潟大学(2023)「マイナー学修一覧」

\*アカデミック・アドバイザーの概要については清水(2015)、その実践における知識や方法に関しては清水・中井(2022)が詳しい

## 2. 「分野横断リフレクション」のデザイン

### 2.1 分野横断リフレクションに関する大枠のデザイン

(1)「分野横断リフレクション」のねらい: 学生がエージェンシーについて省察すると同時に、学修・キャリアの主体という意識をもつこと

(2)「分野横断リフレクション」の設計

- 授業担当者(5名)が会議を開き、シラバスをもとに授業のねらいとルーブリックによる評価を共有し、授業内容・実施方法を議論
- 対象者: 主として学修創生型マイナー履修者(マイナー未履修者の受講も可能)
- 授業内容: 学生がこれまでの**マイナー学修の成果を振り返りながら可視化を図り、これに自らの意味づけを行う**

- ・分野横断デザイン履修時に作成した「**マイナー学修デザイン**」
- ・レポート・テスト結果等の学修成果
- ・正課外活動(部活動・サークル・ボランティア・インターンシップ等)の実績を示す資料

学生が授業時に参照

### 2.2 「分野横断リフレクション」に関する細部のデザイン

○2日間の授業を、A日程(初日)とB日程(2日目)として、それぞれ4コマ連続で行う集中講義として設定

#### (1) A日程

- ・正課外活動も含めた大学生活における学びを振り返り、獲得/達成してきたもの(こと)を把握する
- ・また、自身の**意識の変遷**を可視化する

1時間目: 「**分野横断リフレクション**」ワークシートの作成

2時間目: ワークシートのプレゼンテーションおよびピア・レビュー

→ ①他者に伝えるために自身の学修成果を統合、②発表者と聴衆が気づきや客観性を得る

3・4時間目: 課題解決力を測定するGPS-Academic(ベネッセi-Care提供)の説明・受験

#### (2) B日程

5・6時間目: 分野横断的学修を図式化する「**セルフカリキュラムマップ**」\*\*の作成(図2)

7時間目: セルフカリキュラムマップのポスターセッション

8時間目: マイナー学修を総括する「**リフレクション・レポート**」の作成

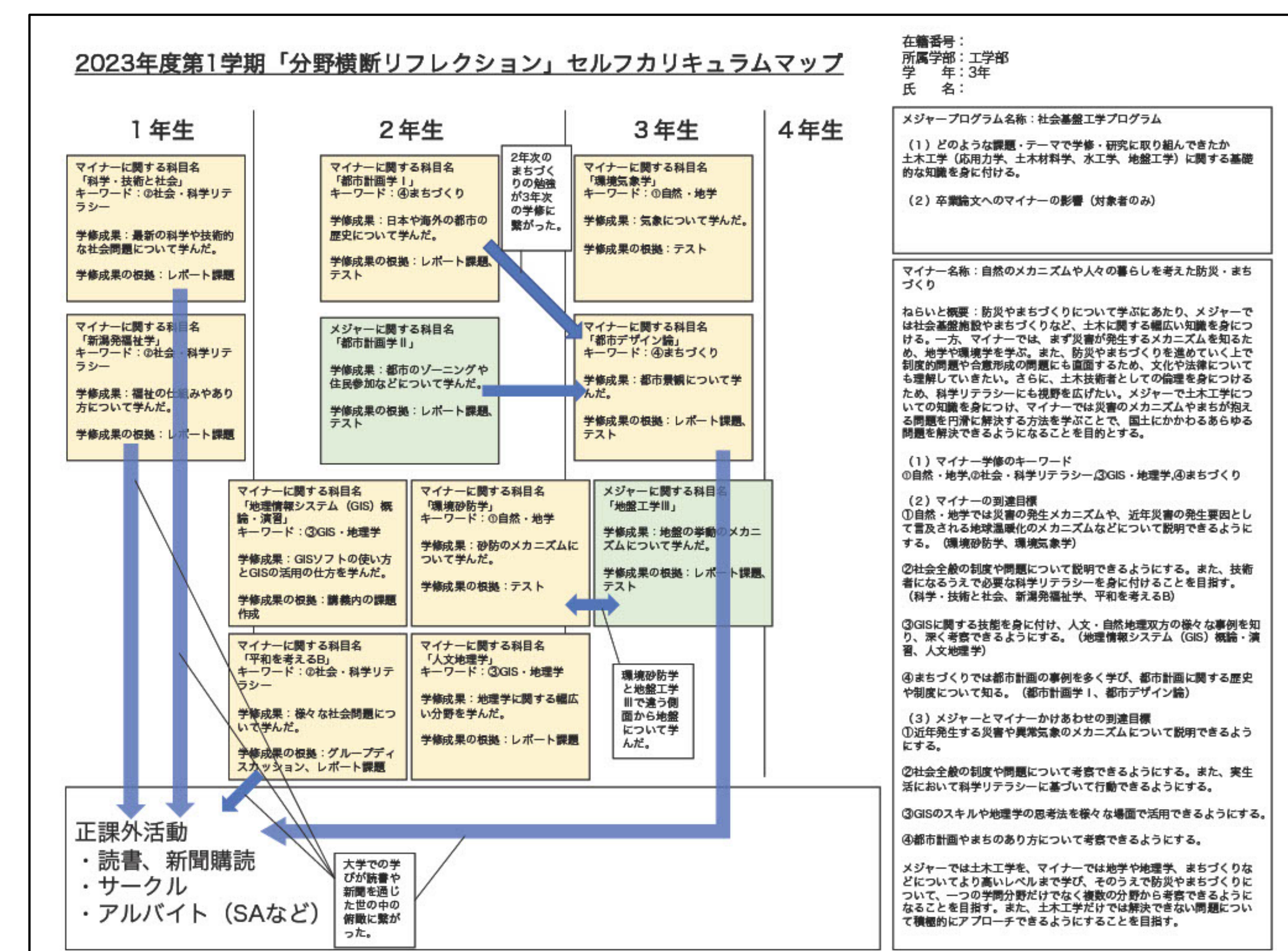
→ 分野横断的な視野の獲得、キャリアを見据えて今後の課題解決に向けた展望を記述  
(マイナー履修者)

マイナー未履修者の場合、教養に関する科目の学修を振り返り、これに方向性を与える

\*\*ここでは当面の名称としてセルフカリキュラムマップを描いているが、妥当な名称については今後の検討すべき課題となっている

授業の到達目標

図2 「セルフカリキュラムマップ」の記入例



## 3. 授業デザインに関する今後の課題

①マイナー履修者と未履修者が混在

②正課外活動を含めることの是非

→ メジャーとマイナーの分野横断的学修成果の統合という点で焦点がぼやける可能性

「分野横断リフレクション」の実践から得る知見をもとに議論し、引き続き授業デザインの改善につとめていく必要がある

### 【参考文献】

神田麻衣子・柿原豪(2023)「分野横断的学修の相談事例にもとづく『マイナー学修アドバイザー・マニュアル』の作成」日本アカデミック・アドバイザー協会第3回年次大会自由研究発表部会A-①  
 清水栄子(2015)「アカデミック・アドバイザー その専門性と実践—日本の大学へのアメリカの示唆」東信堂  
 清水栄子・中井俊樹編(2022)「大学の学習支援Q&A」玉川大学出版  
 新潟大学(2023)「マイナー学修一覧」(https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/program.html 最終閲覧日2023年9月9日)